

2018年4月26日
森ビル株式会社
チームラボ

森ビルとチームラボによる世界初のデジタルアートミュージアム
「MORI Building DIGITAL ART MUSEUM: EPSON teamLab Borderless」
<2018年6月21日(木)の開業が決定!!>
施設面積 10,000 m²の巨大空間に、世界初公開作品を含む約 50 作品を展示!

森ビル株式会社とチームラボが共同で運営する「MORI Building DIGITAL ART MUSEUM: EPSON teamLab Borderless」の開業日が、2018年6月21日(木)に決定いたしました。

「MORI Building DIGITAL ART MUSEUM: EPSON teamLab Borderless」は、世界初のデジタルアートミュージアムであり、チームラボのフラッグシップ施設となります。施設面積 10,000 m²という圧倒的な広さをもった巨大施設は、5つの空間で構成され、世界初公開作品を含む約 50 作品を展示します。

“Borderless”のコンセプトのもとに、展示作品は他の作品との境界がなく、部屋から出て通路を移動しはじめ、他の作品とコミュニケーションし、時に融合します。また、作品と鑑賞者との境界もないため、人々はこの世界に没入し、さらには、自分と他者との境界すら連続的なものになっていくでしょう。境界のないアートでできた本施設は、自らの身体を使って探索しながら、他者と共に新しい体験を創り出していき、世界に類を見ない全く新しい世界となります。



森ビルとチームラボがタッグを組み、世界に類のない施設を創出することで、2020年そしてその先に向けて、国際都市・東京の磁力向上に貢献します。

【本件に関するお問い合わせ先】

teamLab Borderless 広報事務局 (株式会社サニーサイドアップ内)
担当: 藤田、高橋、山口、蛭川、武内
Tel: 03-6894-3200 Fax: 03-5413-3050 E-mail: borderless@ssu.co.jp

■施設面積 10,000 m²を構成する 5 つの空間

「MORI Building DIGITAL ART MUSEUM: EPSON teamLab Borderless」は、5 つの空間で構成されます。

1. ボーダレスワールド

人は自らの身体で自由に動き、他者と関係性を持ち、身体で世界を認識します。そして身体は時間を持ち、脳内で考えは、同じ脳内の他の考えと境界が曖昧なまま影響を受け合い、時には混ざり合います。

アートも、部屋から出て自ら動き出し、人々と関係性を持ち、身体と同じ時間の流れを持ちます。そして、作品は、他の作品とコミュニケーションし、影響を受け合い、時には混ざり合います。そのような作品群による、境界のない1つの世界が『チームラボボーダレス』です。

人々は、自らの身体でその世界に迷い込みます。そして、その境界のない作品群は、人々の存在によって変化します。その1つの世界に、他者と共に身体ごと没入し、溶け込んでいくことで、自分と他者との境界が連続的なものになっていくことでしょう。そして私たちと世界との、境界のない新しい関係を模索していくのです。

<主な作品>



teamLab Borderless のための新作



花の森、埋もれ失いそして生まれる/
Flower Forest: Lost, Immersed and Reborn
teamLab, 2017, Interactive Digital Installation, Endless,
Sound: Hideaki Takahashi

2. チームラボアスレチック 運動の森

「身体で世界を捉え、世界を立体的に考える」をコンセプトに、脳の海馬を成長させ、空間認識能力を鍛える新しい「創造的運動空間」です。

「光の立体ボルダリング」や「高く飛び跳ねたり沈んだりする空間」、「空中の揺れる吊り棒渡り」や、「重力に逆らったような動きをする光の立体物に埋め尽くされた空間」、「地球が裏返ったような世界」、そして、「高低差のある斜面で創られた立体的な大空間」など、複雑で立体的な空間で、身体ごとインタラクティブなデジタルアート空間に没入します。そして、それによって、強い身体性を伴った創造的体験を生み出します。

<主な作品>



光の立体ボルダリング / Three-dimensional Light Bouldering
teamLab, 2018-, Interactive Digital Installation, Sound: DAISHI DANCE



ポヨンポヨン宇宙 / Boing Boing Universe
teamLab, 2018-, Interactive Digital Installation, Sound: DAISHI

3. 未来の遊園地

『学ぶ！未来の遊園地』は、共創(共同的な創造性)のための教育的なプロジェクトであり、実験的な場です。

チームラボのアートは「人々の関係性を変化させ、他者の存在をポジティブな存在に変える」可能性にフォーカスを当てることによって、往々にして個人的になりがちな創造的な活動を、他者と互いに自由なまま、共創的な活動に変えることができるのではないかと考えています。

<主な作品>



お絵かき水族館 / Sketch Aquarium
teamLab, 2013-, Interactive Digital Installation, Sound: Hideaki Takahashi, teamLab

現状ある多くの仕事は機械によって代行されていくと言われていきます。これからの社会では、人間にしかできないこと、つまり共同的な創造性が最も大事になっていくでしょう。

しかし、現状の教育や日常生活では、創造性は伸ばされるどころか、抑さえつけられています。そして、現代の多くの人々は、スマートフォンに夢中になっていて、身体は徹底した個人になっており、共同性を育む機会が減っています。

人間は、自由な他者と共に、身体を動かしながら身体でものを考えています。そして、人間は、他者と共に創造的な活動によって、この世界を創ってきました。共創を楽しむ体験によって、日々をより共創的なものへ変えていけるのではないのでしょうか。そのような思いからこのプロジェクトは生まれています。

4. ランプの森

人がランプの近くで立ち止まり、しばらくじっとしていると、最も近いランプが強く輝き音色を響かせます。

そしてそのランプの光は、最も近い二つのランプに伝播する。伝播したランプの光は、それぞれ同じように強く輝き音色を響かせながら、最も近いランプに伝播し、同じように連続していきます。

伝播していく光は、必ず、全てのランプを一度だけ強く輝かせ、必ずはじめのランプに戻ってきます。つまり、人に呼応したランプの光は、二つに分かれ、それぞれ全てのランプを1度だけ通る一本の光のラインとなり、最後に、起点となった最初のランプで出会います。

5. EN Tea House

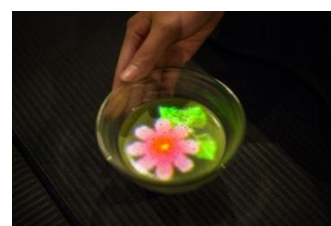
肥前で作られた新しい茶「EN TEA」が注がれた茶器の中に、花が咲いていく作品を体験できる空間です。来場者は新たな体験を通してお茶を飲むことができます。



すべて育てる！ フルーツ畑 / Sliding through the Fruit Field
teamLab, 2016-, Interactive Digital Installation, Sound: teamLab



Forest of Resonating Lamps - One Stroke
teamLab, 2016, Interactive Digital Installation, Murano Glass, LED, Endless



小さきものの中にある無限の宇宙に咲く花々 /
Flowers Bloom in an Infinite Universe inside a Teacup
teamLab, 2016, Interactive Digital Installation, Endless, Sound: Hideaki Takahashi

■プロジェクションパートナーとして EPSON が協賛

MORI Building Digital Art Museum: EPSON teamLab Borderless に、EPSON がプロジェクションパートナーとして参画します。館内には世界最大規模となる約 470 台のプロジェクターを設置し、圧倒的なスケール感の演出を実現します。

■施設概要

- 施設名称 : MORI Building DIGITAL ART MUSEUM: EPSON teamLab Borderless
所在地 : 東京都江東区青海 1-3-8(お台場パレットタウン)
延床面積 : 約 10,000 m²
開業日 : 2018年6月21日(木)
営業時間 : 月～木 11:00～19:00(※祝前日を除く)
金・祝前日 11:00～21:00
土 10:00～21:00
日・祝日 10:00～19:00
※最終入館は閉館の1時間前
※営業時間は時期によって異なります。詳しくはウェブサイトをご確認ください。
- 料金 : 一般/高・大学生 3,200円
子ども(4歳～中学生) 1,000円
※料金は税込の金額となります
- チケット発売 : 2018年5月下旬より発売予定
運営者 : 森ビル・チームラボ有限責任事業組合
(※森ビル株式会社とチームラボが共同で設立し、本施設の運営をおこなう事業組合)
- プロジェクトパートナー : エプソン販売株式会社
URL : <http://borderless.teamlab.art/jp>



お台場周辺エリア

(参考資料)

■都市の時代

現代は「都市の時代」と言われています。1800年には世界の人口に占める都市人口の割合はわずか3%でした。しかし、現在では地球上のわずか5%の面積の都市部に、世界の人口の50%以上が集まっており、先進国に限って言えば、人口の75%が都市部に居住しています。人・モノ・金・情報が集まる大都市では、イノベーションや新たなムーブメントが次々と起こり、世界に発信され、さらなる集積を呼んでいます。そして、熾烈化する国際都市間競争を勝ち抜くためには、経済や金融だけではなく、文化やアートを含む「都市の総合力」が重要です。

■首都・東京の課題は「文化・交流」の力

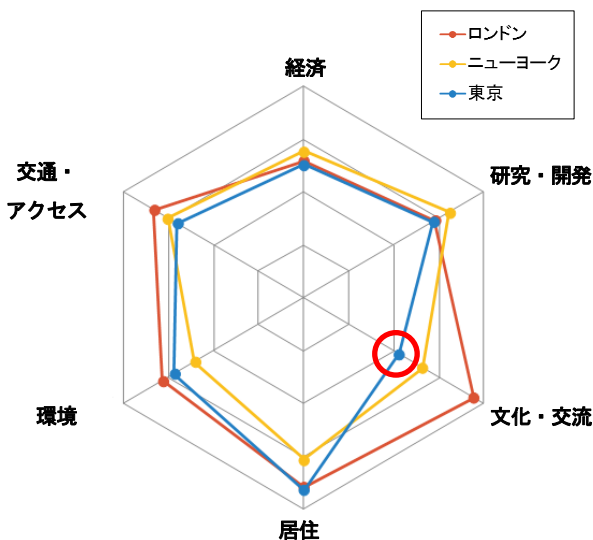
森ビルのシンクタンク・森記念財団が毎年発表している「世界の都市総合力ランキング」によると、東京は「経済」力を始めとする数々の強みを持つ一方、「文化・交流」の力が弱みとされています。このランキングでは「文化・交流」の力を、美術館・博物館の数、文化イベントの開催件数などをもとに評価しており、東京はロンドンやニューヨークと比較するとこの力が不足していることがわかります。(図1)つまり、「文化・交流」の力こそが、首都・東京の総合力をさらに向上させるための鍵なのです。

■五輪を契機に都市の総合力向上に成功したロンドン

2012年にオリンピックを開催したロンドンは、同年にニューヨークを抜いて総合力で世界一位となりました。2005年に五輪開催が決定してから、2012年に向けてホテルやインフラ整備に加えて、様々な文化発信やアートイベントの開催に取り組み、「文化・交流」の力を大幅に向上させました。特筆すべきは、これらが優良な都市資産となり、五輪の翌年以降も都市総合力を継続的に伸ばしていることです。2020年を目前に控えた東京にとって、大変参考になる事例です。(図2)

■東京に新たなデスティネーションを創出

2020年を目前に控えた今、森ビルとチームラボがタッグを組み、首都・東京から世界に向けて、最先端の文化や芸術を世界に発信していきます。世界初のデジタルアート専用ミュージアムとして誕生する「MORI Building DIGITAL ART MUSEUM: EPSON teamLab Borderless」は、世界に類のない新たなデスティネーションとして、世界中の人々を惹きつけることで、首都・東京の総合力向上に貢献します。



(図1) トップ3都市の分野別スコア比較



(図2) トップ4都市の総合スコアの変遷 (GPCI-2008~GPCI-2017)